

駅前地区のまちづくりと連動して地域全体や南区全体に、にぎわいや交流等の魅力を波及させていく一端を担う庁舎

現状・課題

「通過型」の拠点

- 駅前地区に公共施設が多く集積しているが、築50年以上経過した区役所を始め、更新時期を迎えている
- 駅周辺には、商業施設等の生活利便機能が少ない
- 南北に延びる平岸通による駅と駅前地区における人の動線の分断やバスの待合環境に課題

多様な行政機能の複合化により、にぎわいや交流の促進と財政負担軽減を両立する庁舎

現状・課題

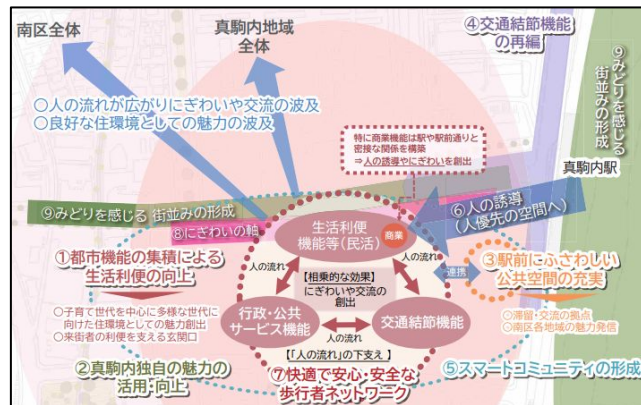
単独施設の集積

- 今後の人口変動に対応しながら市民サービスの維持・向上を図り、公共施設等の適切な管理を進めるため、施設総量の抑制と機能維持の両立が肝要
- 公共施設等の更新や複合化等を行う際は、PPP/PFI手法の導入を検討するなど、民間活力の積極的な活用を進める

整備後・これから

「滞留・交流型」の拠点への転換

- 建替えによる行政機能・公共サービス機能の集積・複合化により、来庁者の利便性向上を図り、多世代が交流できる地域コミュニティ機能を強化
- 民間活力により導入される周辺街区の商業・サービス機能との相乗効果により、にぎわいや交流を創出
- 平岸通上空に整備される歩行者空間により、駅や交通広場、周辺街区と庁舎間のアクセス性や回遊性を向上



整備後・これから

区役所と交流機能や図書館機能などを複合化

- 区役所、保健センター、区民センター、地区図書館、区保育・子育て支援センター（ちあふる）などを集約・複合化することにより、様々な区民の活動を支え、にぎわいや交流を促進
- ちあふるは、保育機能を現在の小規模保育（0～2歳児）から通常の保育（0～5歳児）に拡充し、医療的ケア児保育や一時預かりの実施など機能強化を目指す
- 複合化による施設規模の合理化や民間資金とノウハウを活用するBT0（一括払型）方式の採用により、財政負担軽減と効率的かつ効果的で良好な公共サービスの実現を目指す

フロア構成イメージ



デジタル技術の活用により、行かなくてもよい選択ができ、来庁者にわかりやすくきめ細かいサービスを展開する庁舎

現状・課題

従来型の区役所

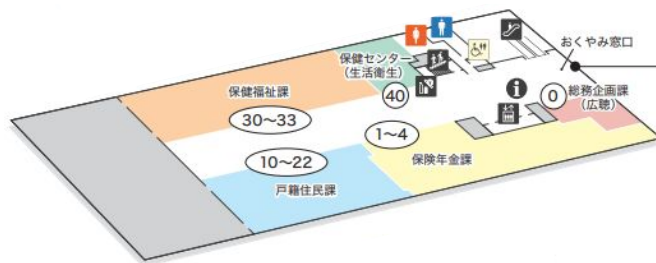
- オンライン化に未対応で来庁が必要な手続が残っている
- 相談も来庁する必要があるが、南区は高齢化率が市内で最も高く、国道沿いに広がる市街地のため、交通面でも来庁者に負担
- 来庁者は、老朽化・狭あい化した窓口で、書類を手書きし、複数の窓口を回る必要性

整備後・これから

デジタル技術によって区民の利便性向上

- 原則として**全ての手続等のオンライン化を推進**し、時間や場所を問わず、来庁しなくても手続ができる環境を実現
- 来庁せずとも相談ができる環境を構築するため、**リモート相談の導入を検討**
- 主要動線からアクセスしやすい場所に**窓口をワンフロア化**し、来庁者の利便性を向上
- 窓口支援システムの導入による**「書かない窓口」の実現**や住所変更などに伴う複数の手続の**「まとめて受付」を実施**し、来庁者の負担を軽減

ワンフロアのイメージ（中央区複合庁舎の3階窓口フロア）



職員の働きやすさと生産性向上を両立し、デジタル技術の進展や人口減少などの将来の変化に対応する庁舎

現状・課題

従来型の執務環境

- 職員数の増加により狭あい化し、固定席により自由な選択が困難
- システム標準化による電子決済の導入を見据えつつ、従来の紙ベースでの処理
- 建築後の長い年月で人口や職員数が増加したように、庁舎の在り方や働き方が今後も多様に変化していく可能性

整備後・これから

新しい働き方への対応と変化への順応

- 生産性向上やコミュニケーションの活性化を促進するフリーアドレスやABW*の導入を検討し、**働きやすさと生産性向上を両立**
- オンライン会議が可能な会議スペースや**ペーパーレス化の推進**による新しい働き方に対応
- 人口減少・少子高齢化や手続のオンライン化などにより、**将来的に来庁者数や区役所で働く職員数が変化することを想定**し、用途や間取りの変更が容易に可能な空間構成を採用して、将来の変化に対応（中央区複合庁舎も同様の構造）

*ABW: Activity Based Working の略称。働く場所や時間を自由に選択して働くこと。

フリーアドレス・ABWのイメージ

